おばあちゃんのこと

　目が見えなくても、耳が聞こえなくても、足がうごかなくても、話せなくても、うごけなくても、すぐおこりだしてしまう人も、はなしがなかなかつうじない人でも、お友だちになれると思う。

　なかよくなりたい、あいてのこともわかりたいと思うきもちがあれば友だちになれるとおもいます。

　じつは、ぼくはおばあちゃんとの思い出があんまりありません。

　ぼくがすごく小さいときに、にんちしょうになってしゃべれなくなったからです。だから、おばあちゃんの家に行ってもおじいちゃんとはあそぶけど、おばあちゃんはちがうおへやでお母さんにかいごされていました。

　いま、おばあちゃんはねたっきりになって病院に入院しています。今思えばもっとおばあちゃんとすごせばよかったと思います。そうしたら、なにかつたわるものがあったんじゃないかなーと思います。

　ぼくのおばあちゃんは、視覚障害者です。うまれたときから目がほとんど見えなかったそうです。おばあちゃんが産まれたときに、おばあちゃんのお母さんは死んでしまったとききました。だから、きんじょの人や親せきの人に助けられておおきくしてもらったそうです。

　ぼくは、お母さんもお父さんもいるし目も見えるし耳もきこえる。おばあちゃんがどんなけくろうしたか、そうぞうもできない。周りの人やお友だちにめぐまれたんやろうなあとぼくのお母さんは言っていました。

　おばあちゃんは、ほとんど目が見えないのに仕事もしていたし、けっこんして子どもも産みました。お母さんが、おばあちゃんは家じが完ぺきだったと言っていました。すごいなあと思いました。

　しょうがいがあるとかないとかは、友達になったりするのにかんけいないんじゃないのかなーと思います。

　ぼくは、おばあちゃんが周りの人やおじいちゃんとあたたかい人間関係をつくってきたように、やさしいきもちで生きていきたいです。